

二本松城の四季

春と夏

霞ヶ城公園は桜の名所として知られています。毎年 4 月から 5 月にかけて桜まつりが開催され、生演奏やその他のアトラクションが行われます。春から夏にかけて、スミレ、フジ、アジサイなどの花が次々に咲きます。これらはすべて、城の敷地が公園になった後に植えられたもので、地域に愛される城の歴史の新たなステージを表しています。

提灯祭り

夏が涼しくなり、秋が訪れると、二本松は提灯祭りの明かりで輝きます。提灯で覆われ、笛や打楽器を演奏する祭り囃子を乗せた 7 台の巨大な太鼓台が街を駆け巡ります。各太鼓台は高さ約 11 メートルで、中に本物のろうそくが入った提灯 300 個で飾り付けられています。これらのろうそくは、火が消えると、太鼓台を機敏に乗り越える係員によって取り替えられる必要があります。夜の終わりまでに、各太鼓台で 1,500 本以上のろうそくが使用されます。

この祭りの起源は、丹羽光重が始めた 1664 年に遡ります。7 台の太鼓台は、それぞれ異な

る地区を代表しています。祭りの最終日の夜、太鼓台の行列が箕輪門から出発します。

秋の菊

秋に城の紅葉が金色や赤に染まると、霞ヶ城公園は住民や訪問者に開放された遊歩道に沿って夜にライトアップされます。10月中旬から11月下旬には、霞ヶ城公園で二本松恒例の菊まつりも開催されます。このイベントは、菊で覆われた、または全体が菊で作られた等身大の人形やジオラマが展示されることで有名です。毎年テーマがあり、参加する園芸家やチームは、そのテーマに沿って最も精巧で美しい展示の制作を競います。

現在の菊まつりは1955年に初めて開催されましたが、趣味としての菊栽培は二本松城の武士がその技術の熟練を示すために品評会を開催したのが始まりです。20世紀初頭の訪問者が、二本松の菊花展は「県内で一番だった」と述べていることからわかるように、この伝統は城の落城後も残っています。

冬には、降った雪が公園を覆い、より静かで瞑想的な雰囲気が漂います。本丸からは、すがすがしい空気の中、西の安達太良山をはじめとする斜面が深い雪で覆われた山々がよく見えます。